



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2012

9月10日号

132
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (659)1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

福島 の 教 訓



副会長 今野 広一

大震災から1年5ヶ月が過ぎ、2年目の夏、2度目のお盆。

肉親を失った遺族はあらためて込み上げてくる深い悲しみと無念さ。いまだに帰還できず避難生活を余儀なくされている家族も多く、原発震災被害の大きさをあらためてかみしめる2年目の夏。

夏で忘れてならないのが、原爆投下と終戦記念である。67年前、広島と長崎に原爆が投下された。「科学者は核分裂のエネルギーを制御できたと喜んだが、最後は手綱を解いて暴れるにまかせるのが核兵器だ。実際、見込み違いもあった。原爆の破壊力のうち、開発陣は衝撃波に重きを置いたとされる。だから放射線と熱線の殺傷力を知っておどろいた。翻って原発の制御は、廃炉まで暴走させないことに尽きる。事あれば国土の一部が失われ、放射線におびえる生活が待つ。福島の教訓は、核は飼いならせる代物ではないということだ。」8月6日の朝日新聞に載っていた記事である。

今から13年前の平成11年9月30日に発生した茨城県東海村のウラン加工工場の臨界事故は、前例のない大事故となり、国は事故の発生の際に明らかとなった原子力災害の対策強化を図るため、新たに「原子力災害対策特別措置法」を制定した。防災対策に活用されるように作成された「原子力防災ハンドブック」の中に「原子炉の中には、核分裂によってできた放射性物質が燃料棒の中にたまっている。このため放射性物質が環境に漏れ出ることのないように、厳重に放射性物質を閉じ込めるための防護が5重につくられている。」との記述がある。しかし、東京電力福島第1原発事故は、事故後の解析によると1号機は電源が失われた2時間半後には核燃料がむき出しになり、原子炉が空たき状態になった。その40分後には炉心溶融がおきた。当然2号機、3号機も炉心溶融を起こし、最後は、核は飼いならせる状況に陥り、5重の防護はいとも簡単に破られ放射性物質が環境に漏れ出した。

強制的な招致が可能な国勢調査に基づいて行われた「国会の事故調査委員会」が、東京電力福島第1原発事故の調査結果をまとめた報告書では、「原発事故は人災」と断定した。報告書の中には福島県原発事故への備えの甘さや事故への対応が不十分であったと厳しく指摘した。

当時、福島県災害対策本部に連日詰められた鈴木憲二前会長は強い意志と情熱を持って県内のスクリーニング活動に取り組み、放射線技師会としてできる最大限の活動の陣頭指揮を行っていた。その激務の合間、少し時間の取れた週末に家族の団欒として訪れた宿先で急逝されたことを我々は決して忘れない。

原発震災における技師会の活動記録を後世に残すことは、我々の使命であり、「会報」に活動記録として多くの会員の協力により掲載できたことはすばらしいことである。しかし、1年5ヶ月が過ぎた現在、原発事故が完全に収束した訳ではなく、第2報の活動記録も否定はできない。余りにも廃炉まで道のりは長い、廃炉までたれが暴走は起きないといえるだろうか。

政府は福島の原発震災の教訓よりひと夏の電力不足を恐れ、何事もなかったように福井県の大飯原発3号機を再稼動した。大震災からまだ1年5ヶ月しか過ぎていないのに福島の教訓が泣く。

「第72回公益社団法人日本放射線技師会定期総会」開催される

去る6月2日(土)第72回公益社団法人日本放射線技師会定期総会が科学技術館サイエンスホール(東京都千代田区)において開催された。

公益法人に移行して初となる定期総会は、中澤会長の挨拶で始まり、平成23年度事業報告、決算報告について原案とおり承認された。平成24年度事業計画案として、放射線技師の業務拡大に伴う臨床研修に向け、本年度は、特にCT・MRI検査に係る針抜き・止血の研修、さらに、注腸検査に関わる研修を充実させる旨の説明がなされ、平成24年度事業計画、平成24年度の予算案について原案とおり可決された。次に定款の一部変更として会の名称を「公益社団法人日本診療放射線技師会」に変更する旨の説明がなされ、原案とおり可決された。次に理事選挙も行われ平成24・25年度の理事が選出された。その後に行われた第2回理事会で会長、副会長が選任された。



平成24・25年度の役員は以下の通り。

| | |
|-------|--|
| 会 長 | 中澤 靖夫 |
| 副 会 長 | 小川 清、井戸 靖司 |
| 全国理事 | 稲葉 孝典、橋本 薫、児玉 直樹、小川 清、加藤 芳人、富田 博信、北村 善明、小田 正記、小野 欽也、原口 信次、井戸 靖司、松本 貴、熊代 正行 |
| 地域理事 | 坂東 道夫(北海道)、土佐 鉄雄(東北)、本望 鎌一(北関東)、小原 修(南関東)、佐野 幹夫(中日本)、轟 英彦(近畿)、西田 史生(中四国)、村上 康則(九州) |
| 監 事 | 新開 英秀、田代 邦幸、室野井 廣 |
| 外部理事 | 岩崎 榮、作野 史朗、西貝 圭子 |

第1回理事会議事録(抄)

日 時：平成24年6月15日(金)14時00分

場 所：県立医大附属病院放射線部カンファランス室

出席者：(会長) 齊藤康雄、(副会長) 遊佐 烈、今野広一、(理事) 白川義廣、佐藤政春、平井和子、古川義一、渡部育夫、菅野和之、新里昌一、堀江常満、嶋田峻二、渡辺和夫、小松一文、佐藤佳晴、(監事) 片倉俊彦、(事務局) 伊藤陸郎、阿部郁明

欠席者：(理事) 佐藤靖芳

議 長：今野副会長

議事録：浜支部 嶋田理事

議事に先立ち議長に今野副会長、議事録作成人に浜支部(嶋田)を選び議事に入る。

議題

1) 平成24年度事業について

役務分担の確認

平成24年度事業執行にあたり役務分担を確認した。県北地域学術担当者遠藤(浩)が移動となり小島(昭)に変更了承された。また、緊急連絡先名簿構築の要請があった。

各委員会事業予定

総務企画

- ・啓発用パネルの作成。公益社団法人移行への対応。
- ・次年度に向けた事業取組みの構築。
- ・理事会の年間予定(9月14日・11月9日・25年3月8日・4月上旬)の決定。
- ・技師会共催勉強会については、専門分科会・各種研修会への組入れを検討する。

表彰委員会

- ・平成24年度50年・30年・20年の表彰者について認定し推薦する。20年表彰については、形式やあり方について検討する。
- ・24年度片倉氏・富塚氏が厚生大臣表彰。齊藤氏が県知事表彰を受賞した。25年度叙勲の申請候補者は、富塚氏の推薦要請があり承認決定した。

精度管理委員会

- ・「各施設における放射線測定器についての実態調査」のアンケートを実施し分析中。県学術大会、会報等で報告する。



調査委員会

- ・「会員の本会に対する意識」のアンケートを現在

回収分析中。県学術大会、会報等で報告する。

広報編集委員会

- ・ニュース・会報の発行。各地域持回りで取組んでいる。

ネットワーク委員会

- ・ホスティングサービスとメーリングリストの統一について進める。

- ・資料・情報の開示と会議資料情報配布の発信について構築する。

学術委員会

- ・県学術大会11月11日(日)に開催。ランチョンセミナー「頭部MRIを中心に」茨城石森文朗氏に決定。市民公開講座「市民や初心者向けの治療の講演を予定」治療技術研究会へ依頼し承諾済み。

- ・WBCの取組と現状についても部門発表を企画する。

- ・東北放射線医療技術大会25年に福島県で開催されるため企画準備を行なうが技師会と技術学会の共催については検討が必要。

- ・「東日本大震災でのMRI装置の被災状況アンケート」の実施。7月14日東北MRI技術研究会開催の取組みと各研究会代表者ホームページ掲載確認を徹底すること。

- ・技師会共催である臨床画像研究会及び学術研究勉強会の代表者は、開催にあたり技師会長に事業目的を報告すること。

生涯教育委員会

- ・フレッシュャーズセミナー。早期開催で検討。

- ・X線CT認定講習会。11月を予定。認定試験2月実施

- ・医用画像情報管理士から医療画像情報精度管理士の移行試験の開催を検討。

- ・「静脈注射に関する講習会の開催日程を決定し早急に日放技へ連絡し開催日の確保に努め、講習内容を再確認する。

- ・研修会の受講証明書の発行を義務付ける。

原発災害対策委員会

- ・現在委員会メンバーにリスクコミュニケーション資料の配布と意思の統一を図る。

- ・県や他の団体からの依頼に備え準備を進めることで了承された。

放射線機器管理部会の立上について

- ・非接続マルチパラメータ測定器の導入により機器管理を実践するため地域世話人を選出し進めたい。

放射線管理士部会、精度管理委員会と事業協同が多く次年度まで組織の再編も含め構築を検討する。

研修会・講習会開催予定

乳がん検診従事者認定講習会の開催

- ・更新講習会を兼ねた参加確認アンケートと25年2月か3月初旬の開催を前提に取組む。

感染対策強化推進事業

- ・感染症危機管理人材育成委託事業を技師会が受託した。平成24年から25年に年1回2日間で開催、50人参加で研修会を行なう。細部の内容について確認が必要であるがこれを進めることで了承された。

2) 報告

第72回日本放射線技師会定期総会

平成24年6月2日東京都千代田区科学技術館サンエンスホールで開催。斉藤会長、今野副会長、白川理事が出席した。平成23年度事業報告、決算報告承認。24年度事業は、診療放射線技師業務拡大に伴うCT・MRI検査に係る抜針・止血研修と注腸検査に係る臨床研修の実施などを承諾。また、公益社団法人日本診療放射線技師会に名称が変更され、新役員決定報告がされた。

第2回東北放射線医療技術大会についての会議

平成24年5月24日福島市コラッセ福島、遊佐副会長出席。今年度宮城県、次年度福島県で開催される。大会長遊佐、実行委員長丹治、コラッセ福島を会場に進めたい。

日本放射線技師会災害対策委員の推薦

福島県災害対策委員として遊佐副会長を推薦した。

リレーフォーライフ

福島医大体育館で開催。福島県放射線技師会も後援すると共に参加を前提に進める。

3) その他

分科会の経費について

- ・活動内容と費用について今後検討する。
- ・分科会保有金は寄付扱いで一時整理し分科会活動費について再構築することで了承された。

報 告

本会の発展に貢献された浜通り支部吉田茂壽氏が、去る7月3日逝去されました。6日に告別式が行われ、県技師会並びに浜通り支部から香典・花輪を捧げご冥福をお祈りいたしました。



支 部 だ よ り

県 北 支 部

「第12回福島県乳腺画像研究会」開催される
平成24年9月1日(土)、「第12回福島県乳腺画像研究会」が郡山市のホテルバーデンにて開催された。今回の研究

会では、10の関係各社にご協力を頂き、参加者を班分けし、ローテーションによりソフトコピー診断の読影実習を行った。

はじめに星総合病院病院長代行の野水 整先生より「乳癌診療における画像診断」という題目でご講演を頂いた。各モダリティにおける画像診断や、実際の症例を用いて乳癌の検査から治療までの経過について丁寧に教えていただいた。また造影剤マンモグラフィやトモシンセシスなどの新しいマンモグラフィや、冠状断で見ることができる超音波など、新しい検査についてご紹介を頂いた。



その後ソフトコピー診断とハードコピー診断の違いや、ソフトコピー診断のポイントについて説明が行われ読影実習が始まった。各メーカーの画像ビューアの操作方法や特徴を話していただき、実際にビューアの操作・カテゴリ診断を行った。ビューアの疑問点だけではなく、デジタルマンモグラフィの施設認定についての質問やトモシンセシス・フォトカウンティングについての質問などもあり、各班・各メーカーで活発な質疑応答が行われた。これからソフトコピー診断の導入を考えている施設や、すでに導入されている施設双方にとって有意義な勉強会となった。

(東北 二瓶)

会津支部

「第79回会津画像研究会」開催される

7月13日(金)午後6時15分より山鹿クリニック2F東側大会議室において第79回会津画像研究会が開催されました。

初めに、第一三共株式会社より「話題提供」と題しまして、CT造影剤の量や濃度の違いによる肝疾患の早期濃染の変化について報告がありました。

続いて、「CTの最新技術動向～被ばく低減技術を中心に～」と題しまして、シーメンス・ジャパン株式会社の水町洋章氏より、Rawデータベースの逐次再構成法のSAFIREによる低減、自動で画質の最適化と被ばく低減を両立させるAECシステムによる低減、STRATON X線管球のコリメータの一部であり、

Adaptive Dose Shieldによって画像再構成に不必要なX線をブロックすることによる低減などの独自の被ばく低減技術の紹介がありました。

今回、どちらの講演も非常に興味深く、参加者は、熱心に聞き入っていました。今後、CT装置は各メーカーとも被ばく低減、ノイズ低減の技術がさらに進んでいくことと思われました。

(遠山)

浜通支部

「第16回いわき地区画像研究会」開催される

平成24年6月19日(火)午後6時半よりいわき市立保健福祉センター多目的ホールにおいて第16回いわき地区画像研究会が開催された。

今回は「フィルムメーカー各社のFPDシステムについて」と題して、ケアストリームヘルス(株)の山下正司先生、コニカミノルタヘルスケア(株)の佐藤新也先生、富士フィルムメディカル(株)の小川博之先生よりご講演を賜った。

4月に横浜で行われたITEMでも話題になったワイヤレスFPDシステムについての内容であったためか数多くの会員の参加があった。



各先生方にはそれぞれのシステムについて説明して頂いたが、各社ともに個々の特徴があり、ユーザーとしてはどれを選んで良いかと迷ってしまうところである。

私事で申し訳ないが、コニカミノルタのユーザーとしてポータブル撮影で主に使用しているが、医療安全上もワークフローが簡略化せられ、とても役に立つシステムではないかと感じている。

(鈴木)

編集後記

9月に入ったもののまだまだ残暑厳しく、日中の暑さには閉口してしまう毎日ですが、これからの時期は様々な勉強会や講習会などが目白押しですので、暑さに負けず、精力的に参加していきましょう。

(森谷)